I. 運営委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した.

1. ［R02-001: 採決］次期大会の開催方法の変更について審議し，承認された（審議期間 2020 年 5 月 11 日から 20 日）.
2. ［R02-002: 報告］梅原　徹氏の運営委員（3 号）への指名について報告された（報告日 2020 年 5 月 29 日）.
3. ［R02-003: 採決］次期大会のオンライン開催について審議し，承認された（審議期間 2020 年 7 月 15 日から 24 日）.
4. ［R02-004: 採決］大会（各種委員会・運営委員会・総会を含む）の日程について審議し，承認された（審議期間 2020 年 7 月 31 日から 8 月 9 日）.
5. ［R02-005: 採決］2020 年度植生学会各賞の候補者の推薦について審議し，受賞者が決定した（審議期間 2020 年 10 月 2 日から 11 日）.
6. ［R02-006: 報告］2020 年度決算書と 2021 年度予算書について報告された（報告日 2020 年 11 月 6 日）.

2020 年 10 月 17 日にオンライン会議において定例の運営委員会を開催した．審議事項は以下の通り.

1. 2019 年度収支決算（案）について審議した.
2. 亀井基金の予算執行計画の見直しについて審議し，承認された.
3. 2020 年度収支予算（案）について審議した.
4. 植生学会誌および植生情報のバックナンバーの処分と発行部数の縮小について審議し，承認された.
5. 執筆要領の改定について審議し，承認された（別掲 1）.
6. 植生学トレーニングスクールの実施方法について審議した.
7. 第 26 回大会（2021 年）の開催地について審議した.
8. 役員任期の変更について審議した.
9. 学会の将来を検討するための議論の場として，将来検討委員会の必要性が議論された.

II. 編集委員会報告

2020 年 8 月 22 日に 2020（令和 2）年度論文賞 1 件の受賞候補者について審議し，承認された.

2020 年 10 月 6 日にリモート会議で編集委員会を開催した．審議事項は以下の通り.

1. 原著論文の無料掲載上限ページ数の変更を含む執筆要領の改定について審議した（別掲 1）.
2. 審査業務マニュアルの修正について審議し，審査手順の確認をおこなった.

III. 企画委員会報告

2020 年 10 月 17 日にオンラインによる定例の企画委員会を開催した．報告事項および審議事項は以下の通り.

1. 2020 年夏，新潟県佐渡市にて「基礎から学ぶ森林調査」の開催を企画していたが，新型コロナウィルスの影響で開催中止となった.
2. 「東日本大震災プロジェクト フェーズ 2」（愛称「とうほく海辺の植物研究会」）では，以下のことを計画・実行した.
   - ・今年度秋季を目処に宮城北部から岩手南部にかけてエクスカーションを企画したが，コロナ禍により順延することになった.
   - ・南三陸町戸倉小学校における海浜植物授業を 6 月 4 日と 11 月 10 日に企画し，その準備（植栽場所の除草・耕起作業を森林インストラクター会みやぎのみなさんと協働）を行った.
   - ・宮城県職員向け海浜植物研修会を 9 月 9 日に開催した．再度 2 月または 3 月に実施する予定である.
   - ・今後もモニタリング調査やエクスカーションについて企画し，継続した学会の社会貢献活動としていく予定である.
3. 日本のシカ - 植生モニタリング調査（2009，2018）からみた地域の生物多様性保全研究を（財）自然保護助成基金に

別掲 1.　植生学会誌執筆要領

新	旧
植生学会執筆要領	植生学会執筆要領
1~9 〈省略〉	1~9 〈省略〉
10. 最終原稿におけるボールド，イタリック，上つきなどの各種指定は，文書作成ソフトの書式設定で行うこと．文書作成ソフトでできない場合は朱書きで行うこと.	10. 最終原稿におけるボールド，イタリック，上つきなどの各種指定はすべて朱書きで行うこと.
11 〈省略〉	11 〈省略〉
12. 原著論文は刷り上がり 14 ページまで，短報，資料・報告は 6 ページまで，総説は 16 ページまで，解説・意見は 8 ページまでを無料とし，原著論文と総説以外は原則としてこのページ数を超えないものとする．超過分については，編集委員会が認めた場合に限り，著者の負担で掲載することができる.（後略）	12. 原著論文は刷り上がり 12 ページまで，短報，資料・報告は 6 ページまで，総説は 16 ページまで，解説・意見は 8 ページまでを無料とし，原著論文と総説以外は原則としてこのページ数を超えないものとする．超過分については，編集委員会が認めた場合に限り，著者の負担で掲載することができる.（後略）
13~23 〈省略〉	13~23 〈省略〉
付則 1. この要領は 2020 年 10 月 18 日以降に投稿された原稿に適用する（2020 年 10 月 17 日改定）.	付則 1. この要領は 2016 年 11 月 11 日以降に投稿された原稿に適用する（2016 年 11 月 10 日改定）.
付則 2. 〈省略〉	付則 2. 〈省略〉

よる助成により執り行った．成果報告書が J-STAGE で公開されている（https://www.jstage.jst.go.jp/browse/pronatura/list/-char/ja）．

4. 日本の植生を紹介する書籍の発行に向けた取り組みについて企画委員担当者と山と渓谷社の編集者とのやり取りで，方向性を探っている状態である．亀井基金から書籍刊行費として助成を 2020 年度に頂く予定ではあったが，今年度中の出版・予算の執行の目処が立たないため，書籍刊行予算を順延することにした．
5. 植生学トレーニングスクールは，学会のリモート開催により，講師・受講者らが集まっての開催は不可能になった．今後はリモートでのトレーニングスクールの開催方法を検討する．

IV.　表彰委員会報告

2020 年 10 月 8 日にオンライン会議によって定例の表彰委員会を開催した．報告事項および審議事項は以下の通り．

1. 2020 年度新体制による本委員会の活動を確認した．
2. 2020（令和 2）年度学会賞 1 名，奨励賞 1 名，功労賞 2 名の受賞候補者について審議し，承認された（審議期間 2020 年 8 月 17 から 22 日）．
3. 第 25 回大会における各賞受賞者の表彰，学会賞受賞者の講演の進め方について確認し，今後，大会実行委員会の下で実施していくこととした．
4. 第 25 回大会における研究発表プログラムの作成について，大会実行委員会の下で実施することを確認した．なお，今回実施が見送られた研究発表賞の選考について，オンライン大会の状況を観察しながら，適切な仕組みを構築していくこととした．
5. 各賞の理念や候補者の公募・選定に関して意見交換を行い，諸規則の微修正や広く公募を得るための方策について具体的に検討した．

V.　群集属性検討委員会報告

2020 年 6 月 23 日から随時，メールや Slack を用いた会議で群集属性検討委員会を開催した．報告事項は以下の通り．

1. 前委員会メンバーから引継ぎを行い，2020 年度新体制による本委員会の活動目標を確認した．
2. 過不足の無い植生体系の見直しを行い，具体的な属性の検討を進める．
3. 見直しと検討には膨大な資料の整理を伴う．そのための財政的な支援の必要性を確認した．

VI.　大会支援委員会報告

1. 鹿児島大会の開催可能性について検討を行い，新型コロナウィルス感染状況の悪化（非常事態宣言）を考慮して中止する判断に至った．
2. 他学会の大会動向について情報収集を行い，オンラインでの大会開催可能性をメール会議で検討した．
3. 2020 年 7 月 14 日に上條会長（支援委員長兼任）から筑波大学を中心とするオンライン大会実施について提案があった。同議案を，運営委員会のメール審議に上程し，承認された（R02-003）．
4. オンラインで定期総会を行うために，通常ならば大会期間中に行っていた運営委員会を約 1 か月前に実施するなどのスケジュールの調整を行った．
5. 第 25 回大会の支援体制，接続テスト，問題点について検討した．
6. 第 26 回大会の支援について検討した．

VII.　2020 年度総会報告

A. 2020 年 11 月 15 日にオンライン大会において 2020 年度総会が開催され，以下の事項が報告された．

1. 学会事務局報告

2020 年 11 月 13 日現在の会員数（正会員 486 名，団体会員 11 団体，賛助会員 1 団体）が報告された．植生学会誌および植生情報のバックナンバーの処分と発行部数の縮小について報告された．

2. 各種委員会報告

上記 I ～ IV の運営委員会，各種委員会の審議事項が報告された．

企画委員会より，植生学トレーニングスクールを 11 月 28 日，12 月 5 日，12 月 6 日にリモートにより開催すること，研究助成について公募を行うことが報告された．

3. その他

第 26 回大会の運営代表者として鹿児島大学の川西基博氏より，大会やエクスカーションの方法について検討しながら開催準備を進めることが報告された．

B. オンラインによる臨時総会が開催され，以下の事項が承認された（審議期間 2020 年 11 月 16 日から 25 日）．

1. 2019 年度収支決算（別掲 2，3）について．
2. 2020 年度予算案（別掲 4，5）について．

VIII.　学会賞

2020 年度の学会各賞の受賞者は以下の通り．授与式は 2020 年 11 月 15 日にオンライン大会で行われ，上條会長より各受賞者に表彰状と記念品が贈呈された．

学会賞　中村幸人（東京農業大学名誉教授）
奨励賞　大津千晶（筑波大学生命環境系）
功労賞　波田善夫（岡山理科大学名誉教授）
　　福嶋　司（東京農工大学名誉教授）
論文賞　齊藤みづほ・星野義延・吉川正人・星野順子．流積と集水域面積の関係からみた西表島の渓流辺植物群落の生態分布（植生学会誌第 36 巻 1 号 17-31 頁掲載，2019 年 6 月発行）

IX.　植生学会第 25 回大会報告

植生学会第 25 回大会（実行委員長: 川田　清和）が，2020 年 11 月 15 日にオンライン大会で開催された．一般講演では口頭 38 題の発表申し込みがあった．大会参加申し込み数は 133 名であった．

11 月 13 日　タイムキーパー接続テスト，タイマー機能動作確認．
11 月 14 日　発表者・受賞者接続テスト．
11 月 15 日　一般講演（口頭発表），学会賞各賞授与式，総会，学会賞受賞者講演．

別掲 2.　植生学会 2019 年度一般会計収支決算　（単位: 円）

収入の部	予算	決算	差異	備考
前期繰り越し	2,666,409	2,666,409	0	
会費	2,908,000	2,576,000	−322,000	一般 342，学生 27，団体 12，賛助 1
バックナンバー売り上げ	20,000	500	−19,500	
雑収入	500,000	539,056	39,056	
		（60,256）		著作権使用料など
		（478,800）		別刷・超過ページなど
利息	500	3	−497	
計	6,094,909	5,781,968	− 312,941	
支出の部	**予算**	**決算**	**差異**	**備考**
植生学会誌刊行費	2,000,000	1,205,222	794,778	第 36 巻 1 号・2 号（別刷印刷費を除く）
植生情報刊行費	400,000	545,931	− 145,931	第 23 号
学会事務局経費	900,000	637,269	262,731	学会事務局・会計事務局経費を含む
編集委員会経費	40,000	4,318	35,682	
企画委員会経費	400,000	38,042	361,958	
表彰委員会経費	50,000	46,428	3,572	
大会補助費	300,000	300,000	0	第 24 回大会
予備費	1,972,521	53,960	1,918,561	第 36 巻 1 号別冊印刷費 26,460 円，第 36 巻 2 号別冊印刷費 27,500 円
計	6,062,521	2,831,170	3,231,351	
収支差額（繰り越し）	0	2,950,798		

別掲 3.　植生学会 2019 年度特別会計収支決算　（単位: 円）

収入の部	予算	決算	差異	備考
前期繰り越し	4,789,253	4,789,253	0	
利子	0	55	− 55	18 年度の利息 15 円を含む
計	4,789,253	4,789,308	55	
支出の部	**予算**	**決算**	**差異**	**備考**
国際学術発表助成事業	150,000	100,000	50,000	発表助成: 唐津 50,000 円，秋山 50,000 円
国際植生学会派遣事業	300,000	0	300,000	
研究助成	150,000	150,000	0	研究助成: 大崎 150,000 円
植生情報データベース化	150,000	0	150,000	
書籍刊行	0	0	0	
事務局経費	0	2,946	− 2,946	2018 年度の国際植生学会派遣事業の振込手数料 1,296 円を含む
そのほか（雑費）	30,000	0	30,000	
計	780,000	252,946	527,054	
収支差額（繰り越し）	4,009,253	4,536,362	− 527,109	

別掲 4.　植生学会 2020 年度一般会計収支予算　（単位: 円）

収入の部	2020 年度	2019 年度	差異	備考
前期繰り越し	2,950,798	2,666,409	284,389	
会費	2,822,000	2,908,000	−86,000	一般 419，学生 47，団体 11，賛助 1（10 月 13 日現在）
バックナンバー売り上げ	20,000	20,000	0	
雑収入	500,000	500,000	0	
利息	500	500	0	
計	6,293,298	6,094,909	198,389	
支出の部	**2020 年度**	**2019 年度**	**差異**	**備考**
植生学会誌刊行費　1,000,000 円× 2 回	2,000,000	2,000,000	0	第 37 巻 1 号・2 号
植生情報刊行費　400,000 円× 1 回	400,000	400,000	0	第 24 号
学会事務局経費	900,000	900,000	0	
編集委員会経費	40,000	40,000	0	
企画委員会経費	400,000	400,000	0	
表彰委員会経費	50,000	50,000	0	
大会補助費	300,000	300,000	0	第 25 回大会
予備費	2,149,338	1,972,521	176,817	
計	6,239,338	6,062,521	176,817	

別掲 5.　植生学会 2020 年度特別会計収支予算　（単位: 円）

収入の部	2020 年	2019 年	差異	備考
前期繰り越し	4,536,362	4,789,253	−252,891	
計	4,536,362	4,789,253	−252,891	
支出の部	**2020 年**	**2019 年**	**差異**	**備考**
国際学術発表助成事業	150,000	150,000	0	
国際植生学会派遣事業	300,000	300,000	0	
研究助成	150,000	150,000	0	
植生情報データベース化	150,000	150,000	0	
書籍刊行	0	0	0	
事務局経費	0	0	0	
そのほか（雑費）	30,000	30,000	0	
計	780,000	780,000	0	
収支差額（繰り越し）	3,756,362	4,009,253	−252,891	

一般講演の申し込みは以下のとおりであった.

〈口頭発表〉

A01　伊豆諸島における維管束着生植物の分布特性　岩下美杜（筑波大・院・山岳科学）・岡島菜穂子（筑波大・生物資源）・上條隆志（筑波大・生命環境系）

A02　伊豆大島におけるキョンの食性および自然植生への影響　中嶋美緒・上條隆志（筑波大学・院）・尾澤進二（東京都立大島公園）

A03　タブノキの年輪による三宅島 2000 年噴火影響の評価　木村祐貴（筑波大・院・生物資源科学）・上條隆志（筑波大・生命環境系）

A04　西之島の植物と植生　上條隆志・廣田　充（筑波大学・生命環境）・川上和人（森林総合研究所）

A05　東北地方におけるコナラ・ミズナラ林の種組成区分と分布　大山弘子（日本ビオトープ管理士会）

A06　本州中部山岳における最終氷期の遺存植生チョウセンゴヨウ林とチョウセンミネバリ林の植物社会学的位置づけとその分布変遷　設樂拓人（東京農工大学大学院農学研究院）

A07　箱根仙石原湿原のハンノキ林の発達過程　津田美子（岐阜大学流域圏科学研究センター）・西廣美穂（自愉企画）・津田　智（岐阜大学流域圏科学研究センター）

A08　Disturbance and structure of *Larix sibirica* boreal forest patches in Mongolian typical forest-steppe ecotone　LI HAO（中国鉄道第二勘測設計院・生態環境設計研究院）

A09　LiDAR データを用いた 3 次元植生図の作成　本部　星

（鳥取大・院・持続性社会創生科学研究科）・日置佳之（鳥取大・農）

A10 米子市湊山（米子城跡）に発達した照葉樹林と人との関わり　中野　遥（鳥取大・地域）・永松　大（鳥取大・農）

A11 山火事停止後の落葉広葉樹林内において人為的撹乱がヤエガワカンバ *Betula davurica* の分布に与えた影響　大津千晶（筑波大）・飯島勇人（森林総研）・長池卓男（山梨県森林研）

A12 レッドリスト植物種が多数生育する高千穂町鳥屋岳のスギ人工林における林床植生に及ぼす森林管理の影響　前田恵未・西脇亜也（宮崎大学・農）

A13 野生植物を用いた木綿の植物染色―日本海側多雪地の里山での事例―　斎藤達也（国際自然環境アウトドア専門学校）

A14 ゴルフ場の植物および植生に対するゴルファーの意識: 多様性の高い草原植生の残るゴルフ場での調査　松村俊和（甲南女子大）・澤田佳宏（兵庫県立大・淡路景観園芸学校）・橋本佳延（兵庫県博）

A15 絶滅危惧植物クマガイソウの有性生殖に関わる景観構造と開花植物　奈良侑樹（東京情報大・院・総合情報）・原慶太郎（東京情報大・総合情報）

B01 外来牧草が侵略した放牧草地における放牧制限による在来植生の回復　西脇亜也（宮崎大学・農）

B02 高知県の里地地域で生育地が減少している草原生植物の生態的特性　大利卓海・瀬戸美文（高知大・院・理）・山下貴裕・比嘉基紀・石川愼吾（高知大・理）

B03 畑の輪作が及ぼす富士山麓の草原植生への影響　増田敦人・大庭崚輔・高田武瑠・粕谷俊太・水谷真菜・浅見佳世（常葉大学社会環境学部）

B04 淡路島の放棄棚田畦畔におけるヤギ除草による植生の変化　菅井暁乃・澤田佳宏（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科）

B05 リモートセンシング技術に基づくチベット高原草原におけるヤク放牧強度の定量評価　程　云湘（中国内蒙古大学・生態と環境学院）

B06 Annual Variability of Species Composition and Gross Primary Productivities of Two Representative Species to a temporal rainfall in Inner Mongolian Grassland　胡　暁星（中国黄岡師範学院・生物与農業資源学院）

B07 モンゴル国アルハンガイ県における各季節の宿営地と採食植物　鈴木康平（元国立民族学博物館）・小長谷有紀（国立民族学博物館）・堀田あゆみ（人間文化研究機構）

B08 Seasonal Changes in Photosynthesis Properties of *Miscanthus condensatus* on Volcanically Devastated Sites in Miyake-jima Island　張　秀龍・鄭　鵬遥（筑波大学生命環境科学研究科）・上條隆志（筑波大学生命環境系）・廣田　充（筑波大学生命環境系）

B09 モンゴルの耕作放棄地における *Stipa krylovii* を用いた草原修復法の検証　川田清和（筑波大学）・高橋健吾（雪印種苗）・Narangerel Tseden-Ish・Undarmaa Jamsran（モンゴル国立生命科学大学）・山中典和（鳥取大学）

B10 Plant species occurrence and its spatial heterogeneity in understory of a mix-culture stand for clove production in East Java, Indonesia　Adi Setiawan・Satoshi Ito・Kiwamu Yamagishi・Yasushi Mitsuda・Ryoko Hirata

B11 淡路島北部における 1950 年代以降の牛飼い農家の生業と畦畔草原利用　伊東由緑子・澤田佳宏（兵庫県立大学大学院・緑環境景観マネジメント研究科）

B12 黒岩高原（岡山県）の湿原植生―成立要因およびニホンジカの影響―　波田善夫（赤磐市山陽）・宮原遥香・佐藤嘉展（愛媛大院・農）・竹門康弘（京都大・防災研）・井上素行（NPO 水力開発研究所）

B13 尾瀬ヶ原の湿原植物群落の約 50 年前との種組成比較　吉川正人・星野義延（東京農工大・院・農）・大橋春香（森林総研・野生動物）・大志万菜々子・八木正徳（東京農工大・農）・井関智弘（東京植生研究会）・星野順子（星野フィールドサイエンス）

B14 農業用水の導水が石狩泥炭地内の残存湿地の水文環境と植生に与えた効果　金子和広（北海道大・院・農）・冨士田裕子（北海道大・FSC・植物園）・横地　穣（北海道大・院・食資源）・井上　京（北海道大・農）・加藤ゆき恵（釧路市立博物館）

B15 全国規模の湿地データベースの作成　冨士田裕子（北大・植物園）・李　娥英（韓国国立樹木園 DMZ 自生植物園）・首藤光太郎（北大・総合博物館）・孫　仲益（北大・植物園）・倉　博子（北大・植物園）・小林春毅（北海道オホーツク総合振興局西部森林室）

C01 高瀬川の河畔植生とその立地環境　佐藤大祐（信州大学大学院総合理工学研究科）・島野光司（信州大学理学部）

C02 植生データを用いた河畔植生のニセアカシア林への遷移の把握　島野光司・後藤智史（信州大学理学部）

C03 奄美大島の河川沿いにおける森林の伐採履歴と種多様性　酒匂春陽・川西基博（鹿児島大・教育）

C04 絶滅が危惧される常緑広葉樹トキワバイカツツジの種子発芽特性　渡部雄貴（高知大・院・理工）・比嘉基紀（高知大・理工）

C05 ソメイヨシノ，オオシマザクラの植栽条件と開花量の差異　馬　思亮・永松　大（鳥取大・院・農）

C06 東日本大震災復旧事業後の水生・湿生植物の状況: 宮城県宮戸島の事例　山ノ内崇志（福島大・共生）・金子誠也（WIJ）・加藤　将（新潟大・教）

C07 2011 年大津波によって倒壊した海岸クロマツ林の植生変化　岡　浩平（広島工大・環境）・平吹喜彦（東北学院大・教養）・松島　肇（北大・農）

C08 海浜植物イソスミレの種子発芽特性と実生の初期成長特性―堆砂の影響に着目して　黒田有寿茂（兵庫県大・自然研 / 兵庫県立人と自然の博物館）・澤田佳宏（兵庫県大・緑環境景観マネジメント / 兵庫県立淡路景観園芸学校）

X. 会員移動（2020 年 5 月から 2020 年 11 月まで）

1. 新入会員（* 学生）

*金子和広　北海道大学大学院農学院環境フロンティアコース

*佐藤大祐　信州大学大学院総合理工学研究科理学専攻理科学分野

*岩下美杜　筑波大学理工情報生命学術院生命地球科学研

究群山岳科学学位プログラム
*増田敦人　常葉大学社会環境学部
*前田恵未　宮崎大学農学研究科 森林緑地環境科専攻
*永末るな　東京農工大学農学部
*枝澤海里　東京農工大学植生管理学研究室
*本部　星　鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科
*宮崎奏一　東京農工大学農学部
大室智暉　合同会社東北野生動物保護管理センター
*向井雄紀　東京農工大学大学院農学研究科
*菅井暁乃　兵庫県立大学大学院　緑環境景観マネジメント研究科
*馬　思亮　鳥取大学持続性社会創生科学研究科学農学専攻
程　云湘　内蒙古大学生態・環境学院
*木村祐貴　筑波大学大学院 生命環境科学研究科
LI HAO　中国鉄道第二勘測設計院・生態環境設計研究院
*谷河　澪　兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科
胡　暁星　中国黄岡師範学院・生物与農業資源学院
*岡野航太郎　東京農工大学大学院農学府農学専攻
向後史恵　株式会社地域環境計画
*王　一丹　北海道大学大学院農学院 環境フロンティアコース

2. 退会
松井　浩，横井秀一，下田路子，大場達之，佐藤仁藏，戸井可名子，丹羽英之，今　博計，傳甫潤也，内藤麻子，渡辺智美，相原隆貴，吉野　咲

3. 宛先不明
杉村康司，八木健爾，山崎香陽子，五十嵐美穂，指村奈穂子，上赤菜都美，伊藤菜美，元廣はるな，張　秀龍，加藤華織，二木隆裕，髙橋健吾，村井貴幸，守下克彦，原田一輝